

## 会 議 録

会議名	令和5年度 第1回那覇市生涯学習推進協議会の会議
開催日時	令和5年10月24日(火)午後1時～午後2時20分
出席者名	[那覇市生涯学習推進協議会] (会長)長濱克実、(副議長)柴田聡史、山盛淳子、松堂美和子、翁長有希、 与儀実彦、上原啓渡、玉寄文代 (欠席)島村聡 [那覇市教育委員会説明者等] (生涯学習課)課長 松田信男、主幹 久場祐介、主任主事 金城隼、 主任主事 石垣真由美
次第	1 委嘱 2 報告 第2次那覇市生涯学習推進計画の延長について 3 議題 (1) 議案1 第2次那覇市生涯学習推進計画の進捗状況について 議題 (2) 議案2 第2次那覇市生涯学習推進計画の令和6年度のめざそう値について
配付資料	(事前送付) 那覇市生涯学習推進協議会規則第2条に基づく報告・審議関係資料
審議状況(経過、結論)以下のとおり。	

## 1 報告 第2次那覇市生涯学習推進計画の延長について

○新型コロナウイルス感染症によって計画の検証ができなかったため計画期間を延ばさざるをえなかったという捉え方でよいか。

●はい。次の計画に生かすための本計画の評価にあたり、評価・検証が困難であり、十分な資料を得るための期間として2年間の延長をしている。

## 2 議題(1) 議案1 第2次那覇市生涯学習推進計画の進捗状況について】

○資料の議案1・議案2について、実績値とめざそう値それぞれ色分けされているが、実績値は令和3年度と4年度、めざそう値は令和2年度と4年度。年度がずれているが、何か意味があるのか。

●実績値の令和3年度と4年度を色づけしているのは、昨年度、協議会の開催ができず、令和3年度の実績値の報告できなかったため、今回、令和3年度と4年度の箇所を色づけしている。

第2次那覇市生涯学習推進計画の策定時、中間値として令和2年度、最終目標値として令和4年度、この二つについてそれぞれめざそう値をその当時に設定しているため。

○図書館来館者数の指標について、電子図書館はどの時期から入ってきているか。コロナの影響で？

●那覇市電子図書館にログインをすると、図書館に実際に来館したものと同等という考え方から、今回指標の数値にはカウントしている。コロナをきっかけに、令和4年度からスタートしている。

## 【次第3 議題(2) 議案2 第2次那覇市生涯学習推進計画の令和6年度のめざそう値について】

○38番の指標、那覇のまちない利用者数について、30,000人で上がっているが、これは過去15,000人。利用者が増えるのはいいが、ついていくガイドがいるのか。ガイドは、30,000人になった場合は対応できるという事でよろしいか。

●実際30,000を見越した内容かというのは、所管課の方に意見として伝えておきたいと思う。

○今の意見を聞いて指標36史跡巡りも関係あるかと。人材不足、年寄りになって足腰が弱くなって。もう少なくなっているという所で。養成をしていかないと今の3万人の対応も難しいかなと。

今、放課後子ども教室に関わっているが、今まで活動していた方がだんだん高齢になり、人手不足になっている。子どもたちの需要は多い。

●史跡巡りについて、ガイドを対象としたフォローアップの研修と情報交換会の実施する方針。委員からの意見も伝えておく。

○今回は計画期間の2年延長と数値の見直しとの事であるが、コロナ禍で起こったことをもっとテコ入れしてやらないと取り戻せないと、非常に思っている。数値を上げたり下げたりはあるが、新たに必要になった項目があると思っている。事務局ではどういう意見か。

もう一つ、コミュニティスクールなど学校関係の施策に、今までは学校教育課と生涯学習課が分かれてやっていた施策もここ数年で文科省の編成も変わっており、もっと教育課程に踏み込んでいかないといけない。本計画策定時は想定できなかったことであるが、ここから2年待つとだいぶ遅れてしまう。この2年間にに対し、新しい項目を追加するというのは現実的ではないのかもしれないが、行政としてはどのように対応するのか。

(次項に続き)

●各指標の修正・追加とすると、生涯学習、学校教育関係だけではなく、DXやSDGsを含めた地球温暖化対策など、各課に影響が及ぶと想定される。今回は、現指標の成果をまずは検証して、次期計画に新たな政策などを盛り込んでいければと考えている。

コミュニティスクールの学校数、或いは協働活動本部の設置数というところは次期計画において新たに設定はできるかと考えている。

○そもそもこのめざそう値というものはどれくらい担当課の仕事を規定するものなのか。達成できなかった場合にどういうことになるのか。つまりその数値の達成に向けたそれぞれの課の取り組み方の動機付けとどうか、どの程度力を入れるのか。設定の仕方の妥当性も含めて、数値が6年度最終的にどのように扱われるのかを枠組みとして教えてほしい。

●第5次総合計画、那覇市の一番上位計画であるため、この政策を実現するために各所管課は実施計画や予算要求をしていく。総合計画にないものを補完するため、第3次那覇市振興計画や、本計画の中で、さらに踏み込んだ指標や取り組みを入れている。

各課は計画の目標を根拠に事業を進めていくため、ただ目標としておいているのではなく、実現に向けた事業の取り組み、予算の要求する上で裏付けという形で考えている。

今回指標は触らないが、学校の働き方改革が、本市としても教育委員会としても重点的に取り組むという方針が出ている。そういったところも兼ね合わせると、目標が達成できない可能性もある。

○今の点はやはり重要で、先ほど別の委員からあったとおり、単純に6年度まで延長すると、それは計画自体の成果の検証のために十分なデータが得られていないため、2年間プラスするということは理解はできる。今事務局からあったように教員の働き方改革も含めて、様々な新しいことが起こっているなかで、単純に延長して、コロナ禍以前に向けた取り組みをして、それを達成できたかを目指していくというのが、もう少しやり方があるのではないかと思った。

以前の会議から数字と取組を見た中で、高すぎる目標や、あるいは既にクリアしている目標などある。そういうものを一度検証するタイミングではあったのではないかと思う。

継続するにしても、本当に達成できるのか、コロナ禍での落ち込みも含めて、そこからのプラスで達成できる数字は何なのか、という検証が本当はあった方がいいのではないかとは思う、これは意見。

それでもなお数字の決め方としてあまり変えられないのだとすれば、少なくとも向こう2年で、その数字に近づけるために、何を特にやるのか、ということは、各担当課からは出していただいた方が良くはないかと思う。特別に追加された2年間で何をやるのか、あるいはコロナでの落ち込みをどう取り戻すのか、個別の方針・方策を整理したほうが良いのではないかなという感想を持っている。